

# JAAS News 第132号をお届けします

一般社団法人シニア社会学会・事務局 2010年6月23日

＜ もくじ ＞		ページ
1. 基調講演「新生シニア社会学会が目指すもの」		1
会員の感想＜基調講演を拝聴して＞		1
2. パネルディスカッション「地域に暮らし、地域を創る」		2
会員の感想＜シニア社会学会を市民の総合知の場に＞		2
会員の感想「懇親会について」		3
会員の感想「懇親会に出席して」		3
3. ICTを利用した「孤立化防止プログラム」開発についての取材報告		3
4. 研究会のご案内		3
5. 本年度連続講座『どう生きる、あなたのセカンドライフ』参加者募集		4

## 1. 基調講演「新生シニア社会学会が目指すもの」

**袖井 孝子（シニア社会学会会長）**

任意団体として、これまで10年間活動してきたシニア社会学会が、このたび、一般社団法人として、法人格を取得することとなった。これは、

- ①今後、新しい公共を目標に事業活動を展開してゆく上で必要なことであり、できれば、最終的には公益法人を目指してゆきたいと考えている。
- ②現在、「高齢者のIT利用によるQOLの向上」という、受託による調査研究を行っているが、市民団体としての活動にも、その裏づけとしての理論化が必要である。
- ③清く貧しく美しく、ではなく、清く豊かに美しく、でありたい。それには、財政基盤の確立と精神的な充足が欠かせない。
- ④老若男女共同参画社会：《世代やジェンダーを超えて連帯、助け合う社会》を実現する。
- ⑤そのための具体的な提案を行い、年齢差別禁止法の成立→age-free societyの実現に取り組んでゆく。

### ◆会員の感想

＜基調講演を拝聴して＞

**堀江 副武（千葉県浦安市）**

総会での袖井会長による「新生シニア社会学会が目指すもの」と題した講演を興味深く拝聴いたしました。2001年任意団体として創設されたシニア社会学会（以下「学会」と略す。）が10年目に入らんとするこの時期に一般社団法人として再出発する意味を、この間の小泉改革、政権交代を経験した政治、財政的余裕がなくなってきた経済、自発的行動を意識しだした公衆の増加といった社会の変化との関連で、「学会」も自ら変化しなければならないという問題意識、或いは社団化によるメリット等良く理解できました。「学会」としてもっとも留意すべきは、市民の意識の変化であり、かつてのお上主導型の公序（従って主務官庁の監督下におかれる公益法人）から自助努力、あるいはこの集合体とも言える共助へ移り変わるなか、これに対応する諸団体のありようも変化を遂げる必要性が出てきたと言う事でしょうか。誤解を恐れずに言えば、いわば仲良しグループとしての「学会」が法人格をもった責任と一定の権限を持った一般社団法人としての再出発は重い意味のあることだと理解しました。袖井会長もご指摘の通り、今後はage-free社会の実現を理念としつつ、次の中期的課題である公益法人化（の是非）や「学会」の目的（市民団体か、学術団体か）といった在り方の再検討にも取り組まれることを願っております。

## 2. パネルディスカッション「地域に暮らし、地域を創る」

### ーパネリストからの提言ー

#### ◆上野 栄一（当学会理事、NPO 法人人材育成ネットワーク理事長、北海道北見市）

できるだけ、近隣や関係のある方とお付き合いの輪をひろげる努力をすること。付き合いの範囲が広がると、その地域のことが見えてくる。すると、地域の問題点も自ずと浮かび上がってきて、何が必要とされているのか、何をしなければならないのかが分かるようになる。



#### ◆佐藤 明子（会員、しなやかシニアの会代表、滋賀県大津市）

それぞれの地域の特異性を尊重すること。これまで歩んできた歴史は大切にすることが必要。温故知新で、自分たちの地域をよく知ることから、愛着・郷土愛が生まれ、地域創りへの風が吹くことになる。シニア世代は、若者や新しい考え方を受け入れる度量をもつことも大事。



#### ◆村田 くるみ（すぎなみ地域活動ネット運営委員・二級建築士、東京都杉並区）

現役引退の2～3年前から意識して地域活動とのオーバラップ期間をもつこと。新しいライフスタイルへの移行の助走である。スムーズな地域活動のためには、メンバー相互の円滑なコミュニケーションが欠かせないが、ITツールの活用も、現役時代からの心がけ次第となる。



#### ◆会員の感想

#### ＜シニア社会学会を市民の総合知の場に＞

#### 米田 美智子（新潟市パワフルエイジング研究会、新潟県新潟市）

パネルディスカッション「地域で暮らし、地域を創る」で、3人の方々の奮闘ぶりをお聞きして、まさに新しい地域の時代、新市民、新老人の時代が具体的に展開中との思いを深くした。しかし、新しいハードルが見えてきた。すぎなみ地域活動ネットワーク運営委員の村田くるみさんの、旧角川書店の邸宅活用を委託されての活動中に見えてきた、高齢者層の姿にである。講師の先導に対し、「私は朗読しに来たのではない。話を聞きにきただけ」とか、「ガーデニングの講習を受けただけ、絵を描くのはいや」と、受講者全員の前で平気で言い切れる60代の出現である。びっくりした。中学校現場で「オレタチケンケーネー」のせりふを初めて聞いた時はショックだった。また、何気なく話しかけたフツの女子中学生達に「市議会議員なら、うちの先生辞めさせて！」と要求された経験も忘れられない。しかし、高齢者まで「ワタシのやりたくないことはやりたくないの」と、言い出したのかと思うと、自己中心主義的、社会全体への無関心風土に、ますます歯止めがかからなくなるのではないかと、不安になった。

シニア社会学会としてはどう取り組むべきか。福祉にしても、教育にしても、マスコミが主導して語られるのは一人ひとりへのきめ細かな対応サービスが中心である。今さらながら、我が新潟のヒーロー、三波春夫氏の名言「お客様は神様です」の浸透ぶりに圧倒される。かつて私達の命は、喜んでお国に捧げるものだったのに。「社会学」は、目の前の事象を社会全体を見通して捉え、未来を考察する学問と、私は勝手に考えている。賛同いただけるなら、シニア社会学会として、シニアの生き方と関連して、このような風潮に対して発言してゆく方向はないものだろうか。「新しい公共」は、ハコモノでもなく、行政依存でもなく、市民の総合知が拓くものだと思う。

#### ◆会員の感想

#### ＜懇親会について＞

藤森 洵子（埼玉県さいたま市）

事務局の皆様には大変お世話様でございました。良い総会が出来て感謝です。懇親会の感想を、とのことですが、気づいたことを少しお伝えいたします。せっかくご遠方からご出席の会員の方たちのご紹介とスピーチが、パーティの途中でありましたが、皆様懇談中できちんと聞く雰囲気になく、良く聞き取れなくて残念でした。パーティ開始前にご紹介やスピーチをみんな済まされた方が良かったと思います。次に、お料理他ですが、今のデフレ価格で色々工夫されている時代には、内容がお粗末だったと思います。値段の割りに・・・ということです。学生食堂だからと考えればいいのですが、せめてコーヒー、紅茶などが用意されていないと、デザートが生きません。もっとシンプルにしても内容の充実があったほうが、シニア社会学会には良いのではないのでしょうか。

#### ◆会員の感想

#### ＜懇親会に出席して＞

牧野 俊浩（埼玉県所沢市）

快晴の5月22日、ドキドキしながら、初めての総会に出席させていただきました。格調高く、気品をもってすすめられた総会のあとは、場所を学生食堂に移しての懇親会。女子大の学生食堂という聖域に、ついぞ踏み込んだことがない新参者の私は、ここでもかなりの緊張を感じておりましたが、「乾杯」に続く気さくなビュッフェパーティでは、お酒の力も借りながら、沢山の方々にご挨拶をさせていただく機会を得て、本当に幸せでした。現在、仕事の関係でNPO法人日本青少年音楽芸能協会というところにも加盟をしており、そこでは、ぼちぼち長老の仲間入りをする年齢になった私ですが、JAASでは、まだまだヒヨッコ。諸先輩方の情熱的なお話を伺いながら、総会時に何度か槍玉にあげられた団塊世代の第一陣世代としてはまだまだ老け込む年齢ではないことに気づく、実に刺激的な体験となりました。このようなアカデミックな会の中で、今後果たしてどのような協力ができるのか、まだ暗中模索ではありますが、「行動するシニア」を目標に、頑張りたいと思います。今後とも何卒ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

### 3. ICT を利用した「孤立化防止プログラム」開発についての取材報告

（理事・森やす子）

6月3日、医療介護系の求人転職情報サービスを行っているキャリアブレイン（CB）の取材を受けました。袖井会長が寄稿された週刊新朝の掲示板を見たということで（シニア社会学会HPの新着情報参照）、CBからシニア社会学会事務局あてに取材申し込みがあったものです。

内容は、ICTを利用した「孤立化防止プログラム」開発についてです。

記事はこちら。<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20100603-00000009-cbn-soci>

「高齢者のIT利用とQOL検討チーム」では、大川情報通信基金助成研究（エイジレスフォーラム8号参照）に続いて、現在、財団法人倶進会の助成を受けて「ICT利用が高齢者の社会的孤立の防止に与える効果に関する基礎的研究」を行っています。現在は聞き取り調査の段階ですが、VoViTという高齢者向けコミュニケーション支援端末を用いての社会実験を予定しております。このプロジェクトでは、シニア社会学会会員の皆様のお力もお借りしたいと考えております。興味ご関心のある方は、[inf-vjaas@ied.co.jp](mailto:inf-vjaas@ied.co.jp) までご連絡ください。

### 4. 研究会のご案内

#### (1) 社会保障研究会（第43回）

- 1) 日時：7月15日(木) 18:00~20:00
- 2) 場所：高齢者生活協同組合会議室 豊島区池袋3-1-2 光文社ビル6F
- 3) 最寄り駅：JR「池袋駅」西口徒歩10分、有楽町線・副都心線「要町駅」5番出口徒歩3分
- 4) 報告者：辻 哲夫（東京大学高齢社会総合研究機構 教授）
- 5) テーマ：「迫りくる超高齢社会への挑戦」

## (2) 濱口研究会第5シリーズ「21世紀の倫理」研究会

第3回は、下記の通り開催されます。

- 1) 日 時：7月13日(火) 17:00~19:00
- 2) 場 所：早稲田大学国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：『君たちはどう生きるか』を読んで、今井洋子氏、高橋詩乃氏のお二人からの発表と意見交換
- 4) その他：①参加者は吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』(岩波文庫)をご持参ください。  
②研究会参加費として300円を徴収させていただきます。  
お問い合わせ等は、事務局島村までお願い致します。

## **5. 本年度連続講座『どう生きる、あなたのセカンドライフ』参加者募集**

本年(2010年度)の連続講座について参加者の募集を開始します。参加は各回ごとに自由に  
お選びいただけます。従来と同様、6回全講座の一括申し込みも割引参加費にてお受けします。  
ホームページでも随時お知らせしますのでご参照ください。お申し込みもできます。

### 《 2010年度 シニア社会学会・連続講座参加者募集(ケーキ、コーヒーor紅茶付き) 》

#### (1) 全体テーマ：『どう生きる、あなたのセカンドライフ』

各回テーマと講師

- ・第1回 2010年9月4日(土)「見直そう家族関係」(袖井孝子)
- ・第2回 2010年10月9日(土)「地域活動のすすめ」(堀池喜一郎)
- ・第3回 2010年11月27日(土)「新しい学びのチャンス」(笠原清志)
- ・第4回 2010年12月4日(土)「自立と共生の高齢期をめざして」(濱口晴彦)
- ・第5回 2011年1月15日(土)「人生は旅：四国八十八ヶ所めぐり」(長田攻一)
- ・第6回 2011年2月5日(土)「新しい働き方」(古村伸宏)

#### (2) 場 所：東京銀座・資生堂 9Fホール

#### (3) 開催要領：各回とも、14時~16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。

6回分一括前納の場合、会員12000円、非会員15000円。

(一括前納の申し込みは、8月27日(金)までの受け付けとなります)

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※参加費は当日、会場にてお支払いください。(6回分一括前納は事前のお振込をお願いします)

※今後とも各回ごとにJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。(事務局担当 鈴木)

一般社団法人シニア社会学会・事務局 (月・水・金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階  
電話&FAX：(03) 5778-4728  
E-mail：[jaas@circus.ocn.ne.jp](mailto:jaas@circus.ocn.ne.jp) URL：<http://www.jaas.jp/>